

基礎がたいせつ

Q 研究分野の魅力を教えてください

環境・エネルギー・資源などにかかわる経済問題について研究しています。具体的な研究対象は、環境汚染、地球環境問題、エネルギー問題、資源利用のあり方など、枚挙にいとまがありません。これらは、私たちの世代のみならず将来の世代にとっても、また我が国のみならずあらゆる国・地域の人々にとっても、極めて重要な問題です。にもかかわらず、一向に解決しないのはなぜでしょうか。少し考えてみると、これらの問題には経済活動が大きく関係していることに気付くでしょう。ということは、なんとかして解決しようとするならば、経済活動のあり方から再検討してみる必要があるということになります。

それこそ今日の私たちの経済社会を根本から変えなければならぬいかもしれません。このような難しいけれども解決しなければならない問題にチャレンジすることは、たいへんやりがいのあることだと思いませんか。

その分野を学ぶ際に気をつける点を教えてください

環境・エネルギー・資源などにかかわる問題は、新聞や雑誌、テレビなどで頻繁にとりあげられています。

その上、身近な問題であることも多く、誰でもこれらの問題について何かしら述べることができるのではないかと思います。学生であれば、それらの情報源に加えて、各種文献やウェブサイトなどを調べたり現地調査をしたりすれば、そこそこのレポートが作れそうです。そのため、他の分野に比べてとっつき易い分野だと思っている学生が多いようです。残念ながら、必ずしもそうではありません。あくまで経済学の一応用分野なのです。応用分野なのですから、経済学の基礎をしっかりと学んだ上で取り組むべきなのです。そうでなければ、表面的な現状調査だけで終わってしまいます。基礎となる理論や考え方が備わった上で取り組むからこそ、分析が適切なものとなり、有効な解決策を見出す可能性も高まるのです。

■市場と経済B

■環境経済学Ⅰ・Ⅱ

山本 芳弘
(やまもと よしひろ)



環境・エネルギー・資源などの経済分析が専門。主として、ミクロ経済学の応用を試みている。意思決定の問題などにも関心がある。より効果的な教育・研究方法を求めて日々試行錯誤中。